

顕彰者のこだわりの栽培

キャベツ

▶3年連続1等賞を獲得した白神キャベツ



○○○○○	山枝ね水白	キャベツ
う	う	う
ど	豆ぎ稲菜	キャベツ
………	………	………
40	160	610
a	ha	ha
		2
		ha

経営規模



佐藤 謙悦さん (56)

カネ子さん (54)

(能代市吹越)

仲間と共に歩んだ

顕彰者への道

平成22年から24年まで、種苗交換会の農産物展示キャベツ部門において、秋田県知事賞・1等賞を3年連続受賞した佐藤謙悦さん・カネ子さんご夫婦は、今回の種苗交換会でその功績を称えられ、顕彰者として表彰されました。また今年2月に当JAで開催された生産者大会において、『白神キャベツの達人』にも選ばれています。7年前に専業農家となつて、キャベツを含め水稲・枝豆・ねぎ

など多品目を栽培し、通年で出荷を行つています。また圃場は1年ごとに回転させて連作障害を防いでおり、キャベツ圃場は黒ボクと砂地の2カ所で栽培し、初夏穫りと秋穫りの二期作に取り組んでいます。これらは作物の安定出荷や作業効率向上のほかに、天候不順や病害虫の発生による被害の分散という利点があります。

「これまでの様々な失敗を糧に、JAや地域農家、部会の仲間たちと情報交換をして、現在の栽培形態となりました。作物はその年々の天候や環境に左右されるので、その影響を出来るだけ抑え、少ない面積を効率的に使って収量増を目指しています。」

佐藤さんの言葉の節々には、部会の仲間とJA、家族への感謝が込められており、自身の栽培を支え農業を行う原動力となつています。

「根こぶ病や虫対策などにおいても、仲間たちと一緒に試行錯誤を行い、より良い防除方法を確立してきました。同じような栽培をする中で、仲間の圃場で起きた異変を部会全員が共有し、事前に防ぐこともできます。やはり農業は、仲間づくりや人とのつながりがある成り立っているものだと痛感しています。」



▲栽培技術向上を目指し、部会で定期的に巡回を実施

顕彰を受けて、これまで続けてきた栽培が証明されて嬉しかったのと同時に、ホツとしたと話す佐藤さん。また3年連続1等賞の陰には、過去に1等賞を受賞しながら、翌年は受賞できなかった経験が活かされています。

「2年連続受賞の後、どうせなら3年連続受賞したいと思うようになり、部会の仲間たちからも応援されていたので、栽培により力が入りました。その中で特に意識していたのが、『去年のものより、良いものを出す。』ということ。交換会出品を通じて、満足せず妥協しないことの大切さを改めて感じました。」